

## 2023年度

科目名称	保育・教職実践演習（幼稚園）
授業コード	BM450A
英語名称	Learning in practice for teaching
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	本多 みどり (教育人間科学部), 今西 ひとみ (教育人間科学部), 呂 暁丹 (教育人間科学部), 安部 久美 (教育人間科学部), 富岡 麻由子 (教育人間科学部), 小林 咲里亜 (共通・教職資格系科目・卒業生発行区分), 旦直子 (教育人間科学部), 木場 有紀 (教育人間科学部), 杉本 信 (教育人間科学部), 松山 寛 (教育人間科学部), 渡辺 令子 (教育人間科学部), 渡部 晃子 (教育人間科学部), 田口 直子 (教育人間科学部), 飯泉 祐美子 (教育人間科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本演習では、大学4年間で学んだ知識・能力・態度および保育・教育実習等で身につけた教育・保育活動の実践力や資質能力が、保育者として最小限必要な資質能力として総合的に習得できるようにすることを目的とする。</li> <li>・幼稚園園長経験者、幼稚園勤務経験者、中学・高等学校勤務経験者等の実務家教員が、それぞれの幼稚園教育、及び学校教育現場での実務経験を活かした指導を行い、指導案の作成、模擬保育などを通して保育教育現場に必要な指導力を身につけられるようにする。</li> <li>・保育者に必要な資質として、幼児を理解するための基本的な考え方、遊びを通しての総合的な指導を実践する力、保護者との連携を行うためのコミュニケーション能力等を身につけられるようにする。</li> <li>・演習を通して、組織の中の一員として課題に対して他者と連携、協働する力、自分の役割を意識してリーダーシップをとっていく力等を身につける。</li> </ul>
科目に関連する実務経験と授業への活用	保育士をめざす上で必要な保育所の役割や機能、関連法規、保育所実習における実習態度、研究態度、対象児の理解、援助能力、実習記録、実習評価の概要を、保育士として保育経験のある教員、安部久美（元幼稚園教諭）、松山寛（元保育園保育士）、田口直子（元保育園保育士）、飯泉祐美子（元中学校教諭）渡辺令子（元保育士）がそれぞれの経験をいかして専門的知識、技術、技能を演習形式で教授する。
到達目標	<p>カリキュラムポリシーの「学び得た保育の基礎知識、身に付けた技能を実際の保育現場において実践し、新たな自己課題を見出す科目」「学修によって身に付けた資質・能力をさらに応用・発展させる科目」を達成するために、以下の目標を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の子どもの成長を多面的・総合的に捉え直し、時代が求める教育及び保育の課題に挑戦する意欲と実践的指導力を身につける。</li> <li>・幼児教育を幅広く知ることによって、変化する社会に柔軟に対応する力と、倫理的観点から、新たな課題に取り組む力を涵養することを到達目標とする。</li> <li>・子ども理解や人間・社会に関する専門的識見、広い視野と異質なものへの理解力多面的な思考力と批判的判断力、人間らしさなどを身に付け、学際的な学び方を獲得する。</li> <li>・保育者に求められる以下の事項の形成と確認 使命感や責任感 社会性や対人関係力 幼児理解や学級経営力 保育内容の指導力 表現力などの実践的指導力</li> </ul>
計画・内容	<p>第1回： オリエンテーション・これまでの履修の振り返り（担当：全教員）  第2回： 「子ども理解に基づいた保育方法の評価」（担当：渡辺：元保育園保育士）  第3回： 「環境構成」（担当：安部：元幼稚園教諭）  第4回： 「幼児の表現教育について」（担当：飯泉：元中学校教諭）  第5回： 「総合表現」（担当：今西・小林）  第6回： 「命の教育」～適正な生き物飼育の必要性～」（担当：木場）  第7回： 「特別支援教育」（担当：呂）  第8回： 「インクルーシヴな保育」（担当：田口：元保育園保育士）  第9回： 「子育て支援とカウンセリングマインド」（担当：旦）  第10回： 「倉橋惣三の保育思想」（担当：富岡）  第11回： 「多様な家庭との関わり」（担当：松山：元保育園保育士）  第12回： 「教育の原理と教職について」（担当：本多）  第13回： 「イメージを豊かにする造形表現について」（担当：渡部）</p>

## 2023年度

計画・内容	第14回：「乳幼児期の安全教育・安全管理（担当：杉本） 第15回：これまでの学びを振り返って～まとめ～（担当：全教員、外部講師）
授業の進め方	1．初回に、カルテが記入できているかを確認する。 2．毎時間、講義形式、演習形式のいずれかを行う。
能動的な学びの実施	・アクティブラーニングを取り入れ、実習や演習を必要に応じて行う。
授業時間外の学修	授業時間外学習（合計60時間程度） 予習：各回の授業の内容について事前に調べる。 復習：各回の授業の内容についてまとめる。
教科書・参考書	教科書 使用せず。 必要に応じて、プリント配布
成績評価方法と基準	課題50%、課題の提出と授業態度50%。
課題等に対するフィードバック	提出されたレポート、課題については添削し返却する。
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	1．カルテに記入すべき事項が未記入の場合には、受講することができない。 2．出席するだけでは評価につながらない。積極的な参加や適切な課題提出を希望する。 3．基本的には欠席・遅刻・早退は不可。一回でも無断で欠席、遅刻、早退すると単位を取得できない。やむを得ない事情により、欠席・遅刻・早退をする場合は、必ず事前に授業担当教員に連絡すること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 zoomによるオンライン授業、課題学修、授業動画配信によるオンデマンド授業を組み合わせ実施する。 成績評価方法 授業中の課題100%。